

北里大学病院・北里大学東病院（旧）を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	EGFR 陽性非小細胞肺癌再発例における治療法についての単施設後方視的研究 (B22-005)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部呼吸器外科学 講師 三窪 将史
本研究の概要・背景・目的	<p>近年、非小細胞肺癌における化学療法目覚ましい進歩を遂げました。特にEGFR 遺伝子変異陽性肺癌に対するEGFR チロシンキナーゼ阻害薬は非常に効果的な治療法です。EGFR は、がん細胞が増殖するために重要な役割を果たしているタンパク質で、がん細胞の表面に存在しています。このEGFR を構成する遺伝子の一部に変化した部分があると、がん細胞を増殖させるシグナルが活性化し、がん細胞が増殖のスピードが速くなります。このEGFR を標的としてつくられた薬剤がEGFR チロシンキナーゼ阻害薬です。EGFR 遺伝子変異陽性肺癌術後再発例に対してもEGFR チロシンキナーゼ阻害薬は有効な治療法とされています。</p> <p>一方、肺癌術後再発例のうち、転移個数が少ない場合には多い場合と比較し予後が良いとされており、このように転移個数が少ないものをoligo-recurrence といいます。oligo-recurrence 例では特に手術や放射線治療などの局所療法が有用とされています。</p> <p>しかし、EGFR 遺伝子変異陽性肺癌の再発例における局所療法の有用性についての検討はなされていません。このためEGFR 遺伝子変異陽性肺癌の術後再発例を検討し、再発した場合に局所治療が有用かを検討をすることによって、このような症例における治療法選択の際の一助となると考えております。</p>
調査データ 該当期間	1990年1月1日から2022年5月2日
対象となる患者さま	北里大学病院呼吸器外科において非小細胞肺癌と診断され外科的切除を受けた患者さま
研究の方法 (使用する試料等)	利用する情報 1990年1月1日から2022年5月2日までのカルテに記載のある診療記録、検査データ(CT、MRI、骨シンチ、PET-CT、血液検査、呼吸機能検査、心電図検査、心エコー検査、病理検査等)を利用します。
試料/情報の 他の研究機関への 提供および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は論文等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。 本研究の遂行のための費用は北里大学医学部呼吸器外科学研究費を使用する。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け適切に管理されております。

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので申し出下さい。
また、情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属・職位：呼吸器外科学 講師

担当者：三窪将史（ミクボマサシ）

電話：042-778-9112

備考